

令和8年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『500人が創るウェルビーイングな地域を目指す』
～翠小学校エコフロー事業に学び、豊かな地域の将来像をデザインする～

活動団体の活動地域：愛媛県伊予市双海町

活動団体名：双海町翠地区ほたる保存会

中間支援主体名：NPO法人ふたみラボ

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	双海町翠地区ほたる保存会
活動地域	愛媛県伊予市双海町（翠地区）
専門性・強み	
<p>ホタルの生育環境や河川環境など科学的な見地から情報を収集し、翠小学校児童と共にほたる保護活動を行っている。</p> <p>小学校の児童と一緒に活動を行うことで、地域の環境に対する意識醸成に努めることができおり、今後もコンテンツを増やしていくことを目標にしている。</p> <p>組織は、会長を中心に翠小PTAや地域住民で構成されており、今では地域コミュニティの中心的役割も担っており、移住者や校区外通学者等とのハブ的役割も担っている。</p>	

団体概要
<p>昭和57年、「十進会」という地域グループ10人が「昔飛んでいたホタルを復活させたい」と、自宅でゲンジボタルの養殖を始めた。これが当団体の始まりです。毎年他の地域から譲ってもらったホタルを上灘川に放ち、餌であるカワニナの放流を続け、農薬の散布について農家に相談を行った。</p> <p>活動をはじめ年々ホタルの光が少しずつ見え始めた。昭和62年には、「ホタルをみんなに見てもらおう」と実行委員会を組織し、翠小学校を主催場にほたる祭りを開催。この祭りは、今でも地域の年間行事となっている。また、環境省のふるさと生き物の里百選にも選ばれている。</p> <p>今では、ホタルの保護だけでなく河川環境や自然環境など多岐に渡って活動を行っている。</p>

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	特定非営利活動法人ふたみラボ
活動地域	愛媛県伊予市双海町
専門性・強み	
<p>SDGsの推進による地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none">■ 小集落に見合う極小規模のエネルギー関連の取組みの模索■ 空き家問題・古民家問題 <p>翠小への通学希望者をはじめ移住希望者に対する豊富な情報提供。提供資料として、具体的な「モデルプラン」や「モデル住宅」の準備。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 就業環境の構築に向けた取組みDX環境整備や、中山間集落の根幹たる農林業再構築の研究。■ 公共交通の充実に向けた取組みや小集落型公共交通の研究。	

団体概要
<ul style="list-style-type: none">■ 設立：2015年に「自然エネルギー愛媛」として設立。■ 目的：環境保全及び省エネルギー活動によって化石燃料に依存しない地域づくり、持続可能な地域づくりに寄与。■ 活動内容：<ul style="list-style-type: none">・再生可能エネルギー等に関する調査研究・普及啓発、教育広報活動・再生可能エネルギーによる地域おこしの促進・持続可能な地域づくりに関する調査研究 等 <p>2024年から双海町に活動拠点を移し、法人名称を変更。</p> <p>双海町翠地区を中心に「地域おこし・地域づくり」の実践的取組みに注力するとともに、他地域でも持続可能な小集落の形成に寄与することとした。</p>

活動団体と地域の紹介

双海町翠地区の特徴

□位置：松山の中心市街地から海岸沿いに南西へ約25km、愛媛県伊予市双海町上灘の一部。（地図参照）

□特徴：自然豊かな山に囲まれ風光明媚な農村風景が残る一次産業を中心とした地域。「翠」という名称は、地区内を流れる上灘川の上流に生息するカワセミの羽の色に由来。豊かな自然を背景に、ホタルの保護活動やグリーンツーリズム活動に取り組んでいる。

昭和7年建築の古い木造校舎を平成22年にエコ改修を実施し、現在も現役で使用している「翠小学校」が存在。

赤い屋根が地区の景観上のシンボルとなっているだけでなく、翠小学校で実施されたエコ改修と環境学習事業及び環境省の「重要里地里山」に選定されていることなど、地域住民の環境意識やコミュニティ意識を高める契機となっており、小学校自体の魅力とともに地区・地域の魅力を増す原動力のひとつとなっている。



翠小学校児童数推移

年 度	改修前（予想）		改修後（実績）		校区外 通学者	備 考
	入学者	全校児童	入学者	全校児童		
平成22年度	1人	20人	1人	20人	—	校舎エコフロー改修
平成23年度	2人	17人	2人	21人	3人	校区外通学受入開始
平成24年度	2人	11人	2人	19人	4人	
平成25年度	0人	8人	2人	15人	5人	
平成26年度	0人	6人	1人	15人	6人	
令和元年度	—	—	4人	22人	9人	
令和5年度	—	—	1人	21人	14人	創立150周年
令和6年度	—	—	4人	24人	17人	
令和7年度	—	—	6人	30人	20人	
令和8年度	—	—	5人	31人	18人	

「ほたるの里ふたみ」 ほたる祭りの様子



昭和57年、「十進会」という地域グループ10人が「昔飛んでいたホタルを復活させたい」と、自宅でゲンジボタルの養殖を始めた。これが当団体の始まりです。毎年他の地域から譲ってもらったホタルを上灘川に放ち、餌であるカワニナの放流を続け、農薬の散布について農家に相談を行った。

活動をはじめ年々ホタルの光が少しずつ見え始めた。昭和62年には、「ホタルをみんなに見てもらおう」と実行委員会を組織し、翠小学校を主会場にほたる祭りを開催。この祭りは、今でも地域の年間行事となっている。また、環境省のふるさと生き物の里百選にも選ばれている。

今では、ホタルの保護だけでなく河川環境や自然環境など多岐に渡って活動を行っている

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

翠地区の地域づくりの発端となった翠小学校エコフロー事業は、校舎のエコ改修とそれを教材とした環境学習を合わせた事業である。その取組をバイブルとして、地域の自然環境・教育環境・一次産業を総合的に良くしていくことで、地域の暮らしを快適なものとし、地域住民や移住者、来訪者のウェルビーイングな地域を創っている。それが、集落を持続可能なものとし、豊かな文化と自然環境を百年先、千年先の子どもたちへ受け継がれている。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

双海町翠地区ほたる保存会、行政、地域住民という主体と協働することで、地域内でのネットワークのハブ機能として、省エネ・再エネの視点に立ち地域を将来につないでいく、持続可能な地域であり続けるために必要な住環境・就業環境など、自身が挑戦したいことを気軽に言い合い、応援し合う場をつくり、地域住民へフォードバックを行うことで、ウェルビーイングな事業創出の支援機能を果たす。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 再生可能エネルギーの導入による生活環境の改善
 - ・省エネ・再エネモデル古民家等住宅改修への取組み
 - ・改修を教材とした勉強会等の実施と、ウェブサイト等でも事業内容の周知を図る。
- 就業環境の改善を目指す取組み
 - ・地域の農林業の再生として、若い農業従事者に対して勉強会の実施。農林業就業機会の創出。
- 上記に対する地域住民の意識醸成

■ 地域の現状と課題

伊予市双海町は人口3,220人、重点地区としている翠地区は人口500人程度。人口推移から、2010年から2024年の間に68.4%に減少しており、減少傾向は明らかに危機的な状況。

一方で、当地域にある翠小学校は、平成22年にエコ改修と環境教育事業を行っており、全児童数が2024年に24人と複式学級の小規模な小学校であるが、校区外通学と移住で児童数が増加傾向。エコ改修工事や竣工後の校舎を実例教材として、建築関係者だけでなく児童や地域住民にまで環境教育を行う取組みから、快適な学習環境の実現と環境意識の高い地域コミュニティが成立している。これが児童を育む社会環境として好意的に受け止められて、移住や校区外からの通学者を呼び込んでいる理由と考えられる。

移住希望者からは、住宅があれば移住したいと希望があるが、適切な住宅が少ない状況であり、公共交通が無いことから快適な住空間の提供と就業環境の提供が課題。

耕作放棄地を活用したオリーブ園の整備

【概要】 集落の維持には、集落周辺の農地の荒廃を止めることと、空家の活用が必要不可欠である。そこで、耕作放棄地を活用したオリーブ園を整備。仲間づくりと搾油施設設置を目指した6次産業化を推進する。



【段階】 目標園地面積50%達成
令和10年の搾油施設設置に向け行政と情報交換実施

【活用している自然資本・地域資源】
・耕作放棄(遊休)地や空き家(古民家)
・地域コミュニティ
(翠小PTAやほたる保存会関係者)



【事業により生じたor 生じそうな成果】
・耕作放棄地など地域資源の活用から、所有者と利用希望者のニーズにこたえることができた。
・放棄地候補の農地など借りることができ、農地所有者の意識改革と経済循環に繋げることができた。

今後の展望

福祉施設や翠小学校児童とのコラボが実現し、農福学の連携がメディアで取上げられ、更にこの取組を活用した仲間づくりを推進し、関係団体「こてつ農園」の法人化と6次産業を推進することで、地域循環の創出に繋げていきたい。

ビオトープの設置検討と地域循環

【概要】 耕作放棄地を活用したビオトープの設置を実施することで、ピザ焼き体験や観光いちご園・翠小学校・地域集落など地域資源を繋げ、グリーンツーリズムの強化を行った。



【段階】 ビオトープや昆虫など生態系の勉強会を実施
地域材料を発掘し、候補地の選定・所有者と繋ぐ

【活用している自然資本・地域資源】
・耕作放棄(遊休)地や地域体験施設
・翠小学校と地域景観



【事業により生じたor 生じそうな成果】
・保存会内に新しい組織「空の会」を作ることができた。
・教育と経済効果を合わせた地域づくりに繋がるのではないか。

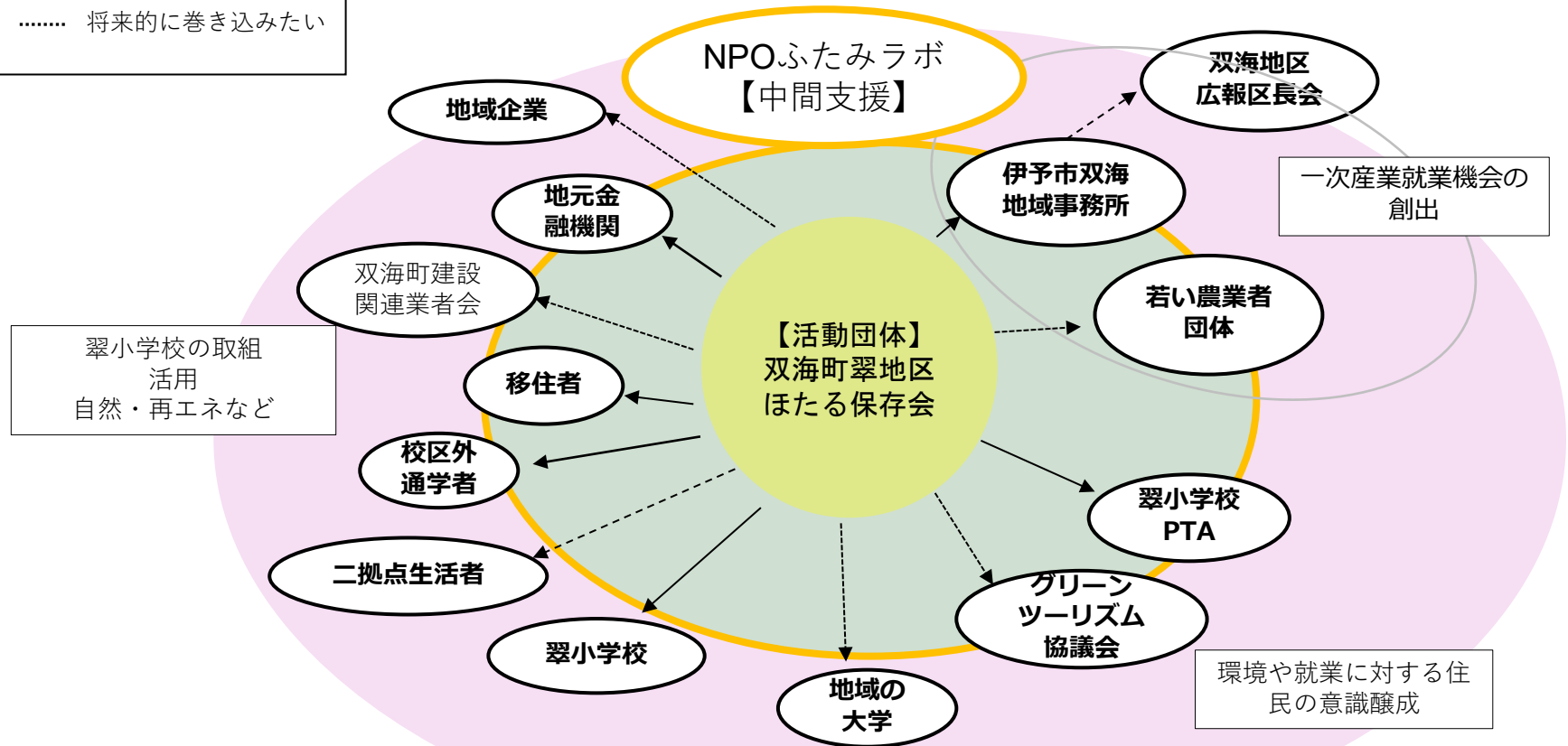
今後の展望

観光いちご園やピザ焼き体験施設、翠小学校を中心としたオリーブ園や地域集落など地域景観について、ビオトープの設置が来訪者の滞在時間の確保に繋がることで、コミュニティと経済循環の創出に繋げていきたい。

「現状の地域プラットフォーム」

<線の凡例>

- 既に連携ができている
- - - これから連携する予定
- 将来的に巻き込みたい



地域プラットフォーム
活動地域:伊予市双海町翠地区
作成者(団体名):NPOふたみラボ
作成日:令和8年3月10日
※更新バージョン等の情報は適宜追加

目標

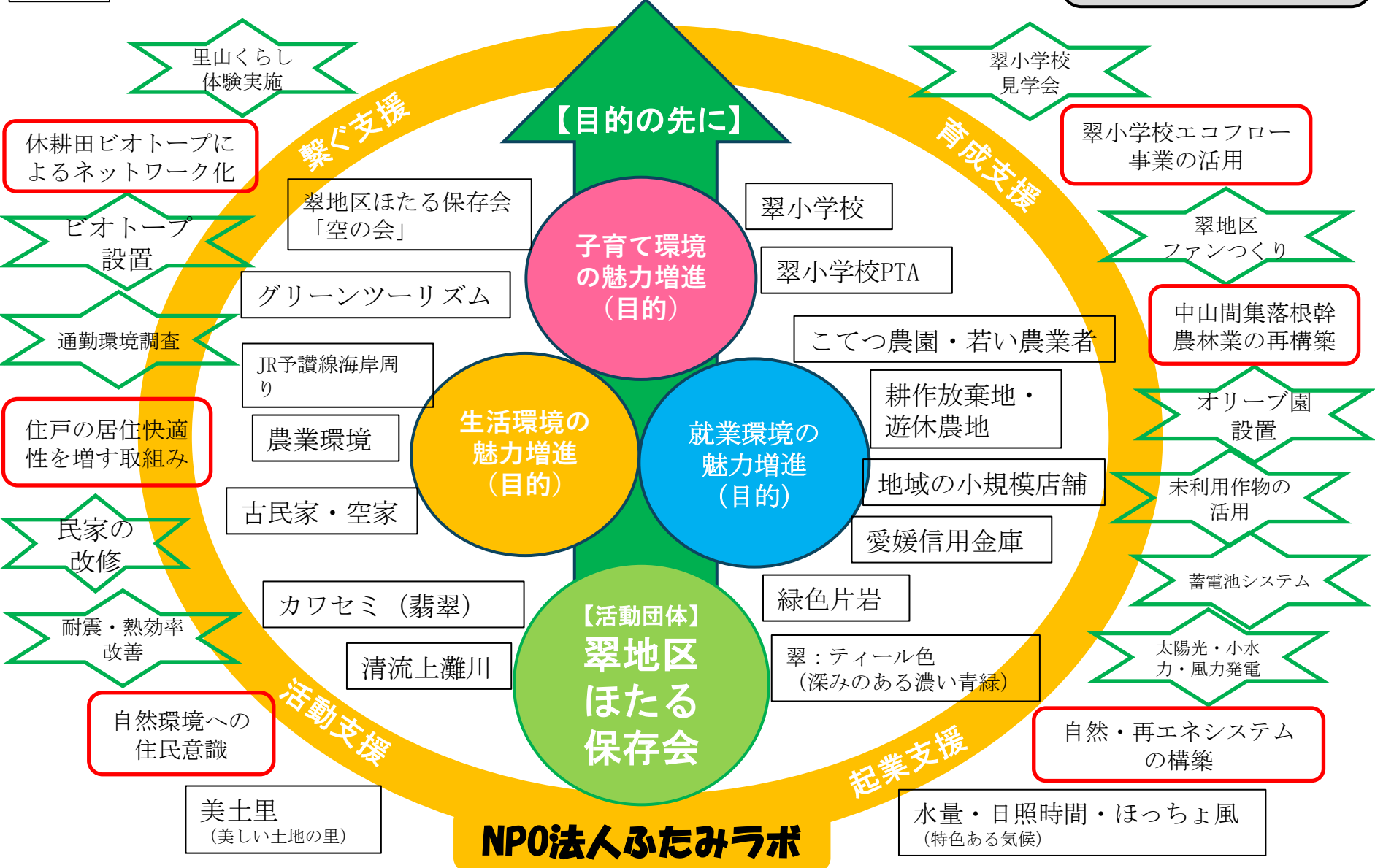
取組み

地域資源

伊予市双海町翠地区 地域版マングラ

500人が創るウェルビーイングな地域を目指す

地域版マングラ
 活動地域: 伊予市双海町翠地区
 作成者(団体名): NPOふたみラボ
 作成日: 令和8年3月10日
 ※更新バージョン等の情報は適宜追加



里山暮らし
体験実施

翠小学校
見学会

休耕田ビオトープによるネットワーク化

翠小学校エコフロー事業の活用

ビオトープ設置

翠地区ほたる保存会「空の会」

翠小学校

通勤環境調査

グリーンツーリズム

翠小学校PTA

翠地区ファンづくり

住戸の居住快適性を増す取組み

JR予讃線海岸周り

こてつ農園・若い農業者

中山間集落根幹農林業の再構築

民家の改修

農業環境

耕作放棄地・遊休農地

オリーブ園設置

耐震・熱効率改善

古民家・空家

地域の小規模店舗

未利用作物の活用

自然環境への住民意識

カワセミ(翡翠)

愛媛信用金庫

蓄電池システム

美土里(美しい土地の里)

清流上灘川

緑色片岩

太陽光・小水力・風力発電

自然・再エネシステムの構築

水量・日照時間・ほっちょ風(特色ある気候)

NPO法人ふたみラボ

～翠小学校エコフロー事業に学び、豊かな地域の将来像をデザインする～

3カ年状態目標

■ 2027年度末の状態目標

持続可能な小集落の実現に向けて、下記のことに繋がる取組の実現を図る。

- 再生可能エネルギーの導入による生活環境の改善
 - ・省エネ・再エネモデル古民家等住宅改修への取組み
 - ・改修を教材とした勉強会等の実施と、ウェブサイト等でも事業内容の周知を図る。
- 就業環境の改善を目指す取組み
 - ・地域の農林業の再生として、若い農業従事者に対して勉強会の実施。農林業就業機会の創出。
- 持続可能な地方小集落の実現に向けて地域内外を問わず取組を広げていく。

■ 2026年度末の状態目標

持続可能な小集落の実現に向けて、下記のことに繋がる取組の方向性と組織づくりを実現する。

- 再生可能エネルギーの導入による生活環境の改善
 - ・省エネ・再エネモデル古民家等住宅改修への取組み計画を立てる。
 - ・改修を教材とした勉強会を実施。
- 就業環境の改善を目指す取組み
 - ・地域の農林業の再生のため、若い農業従事者や地域住民による農林業就業機会の創出を模索する。
- 地域住民がローカルSDGsへの理解から取組の実現に向けて地域コミュニティを形成する。

■ 2025年度末の成果と振り返り

翠小学校のエコ改修と環境教育事業を関係者と再確認し、その取組をバイブルとしたウェルビーイングな地域づくりのため、地域資源の発掘と知識習得を行いながら、地域づくりへの意識醸成と仲間づくりを図ることができた。また、持続可能な小集落を形成していくため、地域づくりに必要な「生活環境の改善」「就業環境の改善」「取組の地域内外に及ぼす波及効果」について、翠地区に必要なローカルSDGsの研究成果の取りまとめを行うことができた。

このことを具現化するため更なる組織強化と各事業を進めていくことについて、活動団体及び関係団体と情報共有を行うことができた。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	地域のビジョンを描く	中間共有会（11月ころ）まで	WS等の開催でビジョンの意見出しからマンダラのブラッシュアップを行う。	地域住民や翠小PTAなどの参加、ふたみラボのファンリテーション
②	体制を整える	8月ころ	役割分担を明確にし、ほたる保存会の組織図を作成。	ほたる保存会のコアメンバーとふたみラボの検討会を行う。
③	事業を生み出す	通年	事業計画づくりと内容について、事業主体と共に考える。 見える化から情報共有する。	事業の調査研究等のため研究費・材料代等必要。
④				

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

- ・地域の中心的な団体で活動団体である「双海町翠地区ほたる保存会」の組織力増進に努める。
- ・地域コミュニティの増進や地域資源の発掘からそれを活用することで新たなローカルSDGsの取組を創出し、実現する。
- ・ローカルSDGsの取組を地域住民と共に実施することでウェルビーイングな地域づくりを推進する。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	<ul style="list-style-type: none">・地域の共生圏事業に対する理解度が少ない・仲間づくりはできたが仲間（ステークホルダー）間での取組みに対する理解がぼやけている	<ul style="list-style-type: none">・地域や地域外や専門家を交え、ワークショップ等で事業の共通理解の促進と情報発信を行う。・ステークホルダー間で、定例会等を実施し、取組に対する理解度アップと波及効果を検証。
②	<ul style="list-style-type: none">・ビオトープの設置では描くビジョンについて、実施予定や費用など実施内容共有ができていない。・耕作放棄地対策ではオリーブ園の設置や農福連携が実施できている。 これらのローカルSDGs事業が地域にどう位置付けられるかを可視化することが課題である。	<ul style="list-style-type: none">・関係者との対話の場を積極的に設け、ビジョンを言語化しブラッシュアップを進める。・更なる地域資源やステークホルダーの繋がりを可視化するマンダラを更新することに取り組む。
③	<ul style="list-style-type: none">・ローカルSDGs事業（ビオトープ設置・農業体験・特産品開発等）を進めることが必要。・そのことが、地域への地域課題の解決にどうつながるか検証をする必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・地域課題やありたい地域の姿をイメージしながら、ローカルSDGs事業を、具体的に進める支援をする。・各事業の目的を明確にすることで、地域内外の関係者が、協力しやすい環境を支援する。

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

- ・地域の中心的な団体で活動団体であるほたる保存会の組織力増進のため、ステークホルダーミーティングの実施にあたっては、今後関わってもらいたい主体に対して参加を促すとともに、翠小PTAなど関係機関等とのWSの内容を一緒に検討し、運営を支援する。
- ・地域コミュニティの増進や地域資源の発掘からそれを活用する新たなローカルSDGsの取組を創出し実現するため、地域の集会等へ出向いて情報発信・情報収集を行う。
- ・ローカルSDGs（ビオトープ設置・農業体験・特産品開発等）の取組を、地域住民と共に実施できるよう繋がり創出する。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

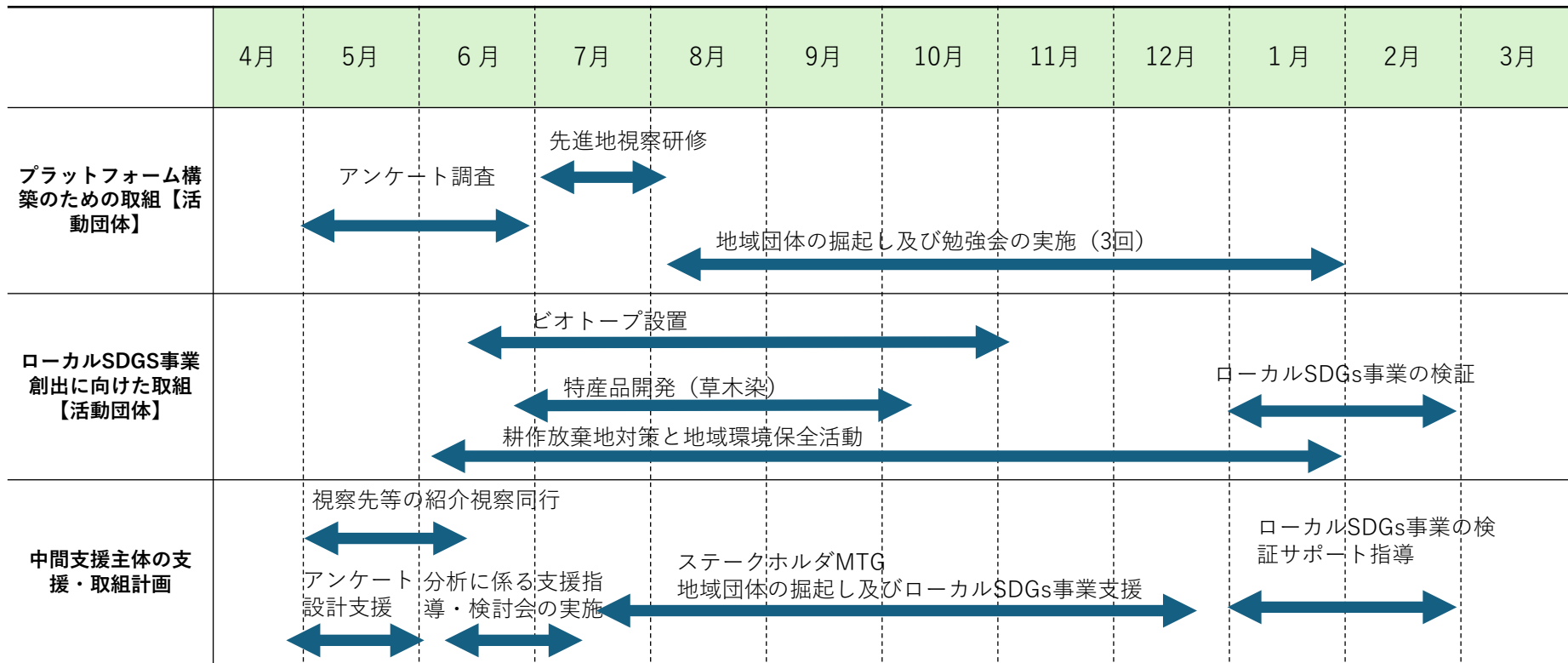
ローカルSDGsの各事業（ビオトープ設置・農業体験・特産品開発等）を実施することで、地域環境・経済循環・地域コミュニティ環境を構築することができ、地域の活力を増進に繋がることから、500人が創るウェルビーイングな地域を持続可能な地方小集落の実現を図ることができる。

また、翠小学校エコフロー事業をバイブルとし、翠小学校を中心に地域づくりに取組を創出することで、小学校・地域住民・地域団体・行政を繋ぐ役割を継続して担う。地域循環共生圏の考え方を地域に浸透させることにより、地域住民や各関係者が翠地区に必要な地域づくりに取り組む機運が醸成され、地域課題を解決するローカルSDGs事業が次々と生まれ、持続可能な地方小集落の創造に繋がると考える。

更に、環境教育が少子化対策など地域課題解決に資するという社会の潮流を地域外にも広め、地域間のつながりを創出するハブ役となり、より多くの地域の見本となることで国内地域づくりに貢献できると感じている。

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）

- ・最適なステークホルダーMTG時期を検討する。